

ねりま区報

Nerima

12/11 令和7年
(2025年)

第2100号 毎月1日・11日・21日発行

発行/練馬区 編集/広聴広報課
〒176-8501 豊玉北6-12-1
☎03-3993-1111(代表)
FAX 03-3993-1194
<https://www.city.nerima.tokyo.jp/>

今号の注目情報

- 区の計画(素案)にご意見を …… 4面
- 第39回照姫まつり
出演者・出展団体を募集 …… 7面
- 今すぐできる!家庭の省エネ
～冬はエネルギーの使用量が増加… 8面



全国都市農業フェスティバル2025は
大盛況でした!



11月28日に
第四回区議会定例会で
前川区長が所信を表明

区民生活をより豊かに もっともっと発展する練馬区へ

はじめに

●東京2025デフリンピック

東京2025デフリンピックが閉幕しました。日本で初めて開催されたことにより、聴覚障害のある方々への社会的な理解が深まったものと考えています。

区ゆかりの選手も大活躍しました。男子陸上の山田真樹選手、女子空手の森こころ選手が金メダル、女子卓球の山田瑞恵選手、男子サッカーの原口凌輔選手が銀メダルを獲得されました。

選手の皆様が力を尽くして闘う姿は、大きな感動を与えてくれました。75万区民を代表して、心からのお祝いと感謝を申し上げます。

●全国都市農業フェスティバル2025の開催

都市農業は区長就任以来、最も力を入れてきた政策の一つです。私自身が直接、農林水産省や国土交通省へ出向き、農地制度や税制度の改善を働きかけてきました。都市農業振興基本法の制定、生産緑地限面積の緩和、生産緑地貸借制度の創

設などを実現することができました。全国自治体の先頭に立って、取り組んできたつもりです。

都市農業の意義を再確認し、都市生活に新たな豊かさをもたらす魅力と可能性を広く発信するため、令和元年度に「世界都市農業サミット」を開催しました。参加されたニューヨークの行政担当者からは、「練馬の都市農業は言わば我々が目指すべきモデル」とコメントを頂き、高い評価を得ることができました。

今月15・16日、秋晴れと金色の銀杏が眩しいなか、32自治体の参加を得て、全国都市農業フェスティバル2025を開催しました。区内外から7万5000人の方にご来場頂き、農産物販売ブース、キッチンカーは大盛況でした。青い空のもと、会場に溢れる農業者と来場者の笑顔に接し、胸に迫るものがありました。

初日の意見交換会では、「都市農業への理解醸成」「経営の安定化」などをテーマに活発な意見交換が行われ、2日目のトークライブでは、農業者の方々に自身の取組を交えて熱く語って頂きました。

開催にご尽力頂いた全国32自治体の皆様、実行委員会の皆様、農業者をはじめJA東京あおばの皆様に心から感謝を申し上げます。

子育て・教育施策

●ママパパ活躍応援事業「ねりまママパパてらす」の開始

ママやパパの地域での活躍を後押しする、「ねりまママパパてらす」を開始しました。今年度中に、ママやパパが講師となる自主講座等を14回開催するとともに、交流イベントを通じて、地域との繋がりを広げていきます。

●区立小中一貫教育校「みらい青空学園」校舎の竣工

旭丘小学校と旭丘中学校を改築し、区内2校目となる小中一貫教育校「みらい青空学園」の校舎が竣工しました。来年4月の開校に先駆け、1月から新校舎での授業を開始します。

2面へ続く